

みんなくりポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

Bulletin of the National Museum of Ethnology Vol. 22No. 4; Cover, Contents, and others

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2010-02-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/00009180

1997—22_卷4_号

国立民族学博物館 研究報告

●
18, 19世紀におけるアムール川下流域の住民の交易活動——佐々木史郎

エストニアのベツェリ領土問題
——分断されたセトゥ人をめぐって——庄司博史

雲南省剣川県海門口遺跡出土の炭化穀粒をめぐって
——それはヒエではなく、アワであった——
——佐々木高明, 松谷暁子, 李 昆声, 阪本寧男

縄文土偶と女神信仰
——民族誌的情報の考古学への体系的援用に関する研究(1)——渡辺 仁

The Orthographic Standardization of Burmese:
Linguistic and Sociolinguistic Speculations——Yoshio Nishi

Materialien zu einer Liste altindischer Verbalformen:
16. *chad*, 17. *chand/chad*, 18. *chard/chrd*, 19. *dagh/dhag*, 20. *dveṣ/dviṣ*,
21. *bandh/badh*, 22. ¹*man*, 23. ²*man*, 24. *mnā*, 25. ¹*yav/yu*, 26. ²*yav/yu*,
27. *sanⁱ*, 28. *star/str*, 29. *starⁱ/st^r*——Toshifumi Gotō



国立民族学博物館

〒565-8511 大阪府吹田市千里 万博公園 TEL.06-876-2151

国立民族学博物館研究報告

22 卷 4 号

1997 年

目 次

18. 19世紀におけるアムール川下流域の住民の交易活動	佐々木史郎	683
エストニアのペッツェリ領土問題		
——分断されたセトッ人をめぐって——	庄司博史	765
雲南省剣川県海門口遺跡出土の炭化穀粒をめぐって		
——それはヒエではなく、アワであった——	佐々木高明, 松谷暁子, 李 昆声, 阪本寧男	803
縄文土偶と女神信仰		
——民族誌的情報の考古学への体系的援用に関する研究 (I) ——	渡辺 仁	829
The Orthographic Standardization of Burmese: Linguistic and Sociolinguistic Speculations	Yoshio Nishi	975
Materialien zu einer Liste altindischer Verbalformen:		
16. <i>chad</i> , 17. <i>chand/chad</i> , 18. <i>chard/chrd</i> , 19. <i>dagh/dhag</i> , 20. <i>dveṣ/dviṣ</i> , 21. <i>bandh/badh</i> , 22. ¹ <i>man</i> , 23. ² <i>man</i> , 24. <i>mnā</i> , 25. ¹ <i>yav/yu</i> , 26. ² <i>yav/yu</i> , 27. <i>sanⁱ</i> , 28. <i>star/str^r</i> , 29. <i>starⁱ/str^r</i>	Toshifumi Gotō	1001
彙 報		1061
国立民族学博物館研究報告 22巻 総目次		1074
国立民族学博物館研究報告寄稿要項		1076
国立民族学博物館研究報告執筆要領		1077

BULLETIN OF THE NATIONAL MUSEUM OF ETHNOLOGY

Vol. 22 No. 4

1997

-
- SASAKI, Shiro The Trade Activity of the Peoples of the Lower
Amur Basin in the 18th and 19th Centuries 683
- SHOJI, Hiroshi The Setos and Petseri Territory: Problems of a Split
People by a Russo-Estonian Territorial Dispute..... 765
- SASAKI, Komei Carbonized *Setaria* Grain at the Haimenkou Site,
MATSUTANI, Akiko Jianchuan Prefecture, Yunnan Province, China..... 803
LI, Kunsheng
SAKAMOTO, Sadao
- WATANABE, Hitoshi Jomon Clay Figurines and the Goddess Cult:
An Ethnoarchaeological Study, part 1 829
- NISHI, Yoshio The Orthographic Standardization of Burmese:
Linguistic and Sociolinguistic Speculations 975
- GOTŌ, Toshifumi Materialien zu einer Liste altindischer Verbalformen:
16. *chad*, 17. *chand/chad*, 18. *chard/chrd*,
19. *dagh/dhag*, 20. *dveṣ/dviṣ*, 21. *bandh/badh*,
22. ¹*man*, 23. ²*man*, 24. *mnā*, 25. ¹*yav/yu*, 26. ²*yav/yu*,
27. *sanⁱ*, 28. *star/str̥*, 29. *starⁱ/sṯr̥* 1001

彙報

(平成9年10月～平成9年12月)

人事異動
(行政職)

(配置換)

- 11月1日 情報管理施設情報企画課長
木下 伸二
(学術情報センターネットワーク課長)
名古屋大学附属図書館事務部情報管理課長 木村 伸夫
(情報管理施設情報企画課長)
- 11月2日 管理部長 池之上忠教
(東京国立近代美術館庶務課長)
メディア教育開発センター管理部長 小村久米夫
(管理部長)

(教育職)

(昇任)

- 11月16日 第三研究部助教授 柄木田明子
(第三研究部助手)
(外国人客員研究部門)
- 10月1日 第五研究部助教授 TA'A Tesema
(エチオピア, アディスアババ大学社会科学部学部長)
<任期 9.10. 1～10. 3.31>
- 10月16日 第五研究部教授
KEYES, Charles F.
(アメリカ合衆国, ワシントン大学人類学部教授)
<任期 9.10.16～10. 1.15>
(任期満了)
- 10月15日 第五研究部教授
PLATENKAMP, Josephus
Domini-cus Maria
(オランダ, ミュンスター大学民族学研究所教授)
<任期 9. 4.15～ 9.10.15>

シンポジウム

◎民族学部門第21回国際シンポジウム

「インドネシアの儀礼を再考する」

期間 平成9年10月1日(水)

～10月8日(水)

場所 国立民族学博物館

摘要 今回のシンポジウムは、インドネシアの地域社会でおこなわれる儀礼を解釈するにあたって、儀礼に参加する人々が儀礼を遂行することにどのような意義をあたえるのか、またそれが社会の理解にどのような関連をもつのかといった問題について活発な討論がおこなわれました。

顧問

梅棹 忠夫 財団法人千里文化財団会長

組織委員会

(委員長)

石毛 直道 国立民族学博物館長

(委員)

- 杉田 繁治 国立民族学博物館副館長
熊倉 功夫 国立民族学博物館第一研究部長
端 信行 国立民族学博物館第二研究部長
和田 正平 国立民族学博物館第三研究部長
小山 修三 国立民族学博物館第四研究部長
藤井 龍彦 国立民族学博物館第五研究部長
小村久米夫 国立民族学博物館管理部長
湯浅 叡子 財団法人千里文化財団専務理事

実行委員会

(委員長)

杉島 敬志 国立民族学博物館第二研究部

(委員)

- 寺田 吉孝 国立民族学博物館第二研究部
福岡 正太 国立民族学博物館第二研究部

部	17:00 登録
南 真木人 国立民族学博物館第三研究部	10月2日(木)
野林 厚志 国立民族学博物館第三研究部	10:00 特別展見学
林 勲男 国立民族学博物館第四研究部	11:30 館長表敬訪問
加藤 昌彦 国立民族学博物館第五研究部	13:30 開会式
平山 健一 国立民族学博物館研究協力課長	セッション1
宇治日出二郎 財団法人千里文化財団常務理事	(座長:杉島 敬志)
(参加者)	14:00 An Explanation in the Making: An Interpretation of a Community Ritual in Bali 中村 潔
Gregory Acciaiola 西オーストラリア大学人類学部講師(オーストラリア)	14:45 討論
Cécile Barraud フランス国立科学研究センター研究部長(フランス)	セッション2
Gregory Forth アルバータ大学人類学部教授(イギリス)	(座長: Clifford Sather)
Jos Platenkamp ミュンスター大学民族学研究所長(オランダ)	15:45 Social Differentiation and the Transformation of Ritual 福島 真人
Clifford Sather リード大学人類学部助教授(アメリカ)	16:30 討論
Urbanus Tongli アトマ・ジャヤ大学レボガン・ディディ調査センター長(インドネシア)	10月3日(金)
青木恵理子 鈴鹿国際大学国際学部	セッション3
小池 誠 桃山学院大学文学部	(座長: Urbanus Tongli)
杉島 敬志 国立民族学博物館	10:00 The Implications of Performing <i>Mangajingu</i> in Eastern Sumba 小池 誠
中川 敏 大阪大学人間科学部	10:45 討論
中村 潔 新潟大学人文学部	13:00 Mortuary Payments and Funerary Ritual in Central Flores Gregory Forth
福島 真人 国際大学グローバルコミュニケーションセンター	13:45 討論
	セッション4
	(座長: 福島 真人)
	14:45 Performing the 'Heritage' and Knowing the 'Mother': An Exploration of Ritual Consciousness in Social Dynamics in a Lionese-Speaking Area in Central Flores 青木恵理子
	15:30 討論
	10月4日(土)
	セッション5
	(座長: Jos Platenkamp)
日程	10:00 Rituals that Make up the World: An Analysis of Mortuary Ceremony
10月1日(水) (いばらき京都ホテル)	

among the Endenese

中川 敏

10:45 討論

13:00 The Acceptance and Interpretation of Ritual Rules 杉島 敬志

13:45 討論

10月6日(月)

セッション6

(座長:中川 敏)

10:00 True, Even, Straight: The Meaning of Ritual Performance in tanebar-Evav Cécile Barraud

10:45 討論

セッション7

(座長:Gregory Forth)

13:00 Birth-giving Dead: Two Levels of Relation in Society at Large. A Case of Nuaulu, Seram, Moluccas Urbanus Tongli

13:45 討論

14:45 Visibility and Objectification in Tobelo Rituals Jos Platenkamp

15:30 討論

10月7日(火)

セッション8

(座長:青木恵理子)

10:00 Words and the Ethnosemantics of Iban Shamanic Ritual Clifford Sather

10:45 討論

11:45 The Place of Nonplace in Bugis Ritual: The Experience of Transience and Modularity of Frames in the Modern World of Migrants Gregory Acciaioli

12:30 討論

14:00 総合討論

(座長:Cécile Barraud)

14:00 討論①

(座長:杉島 敬志)

16:15 討論②

17:00 閉会式

10月8日(水) (いばらき京都ホテル)

10:00 ワークショップ

解散

文部省国際シンポジウム

国立民族学博物館開館20周年記念

◎「博物館は「文化」のイメージをいかに創りあげてきたか」

期間 平成9年10月21日(火)

～10月24日(金)

場所 国立民族学博物館

摘要 今回のシンポジウムは、博物館における「自己の文化」あるいは「他者の文化」のイメージ形成のあり方について、その問題点と可能性を検討し、「文化」の表象の諸様式を、考察するとともに、その未来の姿を探ることを目的として活発な討論がおこなわれました。

組織委員会

(委員長)

石毛 直道 国立民族学博物館長

(委員)

杉田 繁治 国立民族学博物館副館長

熊倉 功夫 国立民族学博物館第一研究部長

端 信行 国立民族学博物館第二研究部長

和田 正平 国立民族学博物館第三研究部長

小山 修三 国立民族学博物館第四研究部長

藤井 龍彦 国立民族学博物館第五研究部長

栗田 靖之 国立民族学博物館情報管理施設長

小村久米夫 国立民族学博物館管理部長

実行委員会

(委員長)

田村 克己 国立民族学博物館第五研究部

(副委員長)

- 吉田 憲司 国立民族学博物館第三研究部
 (委員)
 秋道 智彌 国立民族学博物館第一研究部
 笹原 亮二 国立民族学博物館第一研究部
 寺田 吉孝 国立民族学博物館第二研究部
 榎屋 友子 国立民族学博物館第二研究部
 栗本 英世 国立民族学博物館第三研究部
 南 真木人 国立民族学博物館第三研究部
 林 勲男 国立民族学博物館第四研究部
 園田 直子 国立民族学博物館第五研究部
 平山 健一 国立民族学博物館研究協力課長

報告者

- カルロス・エレラ
 ベルー国民博物館(ペルー)
 ステファノ・カルボニ
 メトロポリタン美術館(アメリカ合衆国)
 ナイジェル・パーリー
 大英博物館(イギリス)
 ジェルマン・ルンベット
 カメルーン文化省(カメルーン)
 落合 一泰 一橋大学
 木下 直之 東京大学
 笹原 亮二 国立民族学博物館
 田村 克己 国立民族学博物館
 千野 香織 学習院大学
 吉田 憲司 国立民族学博物館

討論者

- アワン・ハスマディ・アワン・モイス
 マレーシア国民大学(マレーシア)

- ナオミ・イン=イン・ツェト
 香港歴史博物館(中国)
 デレ・ジェゲデ
 インディアナ州立大学(アメリカ合衆国)
 アラパタ・ハキワイ
 ニュージーランド国立博物館(ニュージーランド)
 カリン・ヒガ
 国立全米日系人博物館(アメリカ合衆国)
 ヤン・N・ピータース
 社会科学研究所(オランダ)
 ローレンス・フォアナオタ
 ソロモン諸島国立博物館(ソロモン諸島)
 J. A. ラコトアリソワ
 アンタナリヴォ大学付属美術考古博物館(マダガスカル)
 岡(袋井)真理子 国際交流基金アジアセンター
 川口 幸也 世田谷美術館
 全 京秀 ソウル大学(大韓民国)

日程

- 10月20日(月)
 13:30 参加者登録
 10月21日(火)
 10:00 開会式 (司会: 栗田 靖之)
 あいさつ 石毛 直道
 10:10 問題提起 吉田 憲司
 10:50 特別展「異文化へのまなざし」見学
 (解説: 吉田憲司, 林 勲男)
 14:00 セッション1: 博物館と美術館
 (司会: 川口 幸也)
 14:30 「伝統文化」という固定観念
 千野 香織
 15:00 民族誌学の好奇心が作り出した
 プリミティブ・アート
 ジェルマン・ルンベット
 15:40 討論

- コメント アラバタ・ハキワイ
岡 真理子
- 10月22日 (水)
- 9:30 セッション2: 国民文化と民族文化
化
(司会: 端 信行)
- 9:30 孔子廟の中のヒマラヤ山脈とナイ
ヤガラ瀑布 木下 直之
- 10:00 「国民博物館」—ペルーの文化遺産
の豊かさと多様性を提示する長期
的試み カルロス・エレラ
- 10:30 ナイジェル・バーリー
- 11:10 討論
コメント カリン・ヒガ
ラコトアリソワ
- 14:00 セッション3: 普遍史と地域史
(司会: 栗本 英世)
- 14:00 日本の「地域博物館」における「地
域」と「歴史」の展示をめぐる諸
問題 笹原 亮二
- 14:30 メトロポリタン美術館におけるイ
スラーム美術の展示—包括的で豊
富なコレクション
ステファノ・カルボニ
- 15:00 近代メキシコの文化的自画像—人
類学系博物館にみる歴史哲学
落合 一泰
- 15:40 討論
コメント アブドゥッラー・サウド
・アッ=サウド
ヤン・ピーターズ
- 10月23日 (木)
- 9:30 セッション4: 総合討論
- 9:30 議論の総括 田村 克己
- 10:00 総括討論
(司会: 田村 克己)
(司会: ノバート・A・カヨンボ)
- 13:30 特別公開フォーラム
文化を超えた対話にむけて—民族
学博物館の可能性をさぐる—

- 13:30 館長挨拶 石毛 直道
- 13:40 趣旨説明 田村 克己
- 13:50 特別講演 デレ・ジェゲデ
異文化の展示, 表象, 誤った表象
—イデオロギーの延長としての博
物館
- 14:20 特別講演
ローレンス・フォアナオタ
ソロモン諸島の人々の「文化」の
表象—ソロモン諸島国立博物館の
過去, 現在, 未来の役割
- 15:00 パネルディスカッション
(司会: 園田 直子)
デレ・ジェゲデ
ローレンス・フォアナオタ
ステファノ・カルボニ
ナオミ・イン=イン・ツェト
吉田 憲司

10月24日 (金)

10:00 ビジネス・ミーティング

◎特別研究「アジア・太平洋地域における民
族文化の比較研究第9回シンポジウム」
「儀礼と口頭伝承」

期間 平成9年10月27日 (月)

~10月30日 (木)

場所 国立民族学博物館

摘要 今回のシンポジウムは, おもに儀礼
の言語的部分, とりわけ口頭伝承に
焦点をあて, それぞれの民族誌的
データをもちよって, 世紀末の, ア
ジア・太平洋地域における儀礼と口
頭伝承の特徴をあきらかにすること
を目的として, 活発な討論がおこな
われました。

実行委員会

(委員長)

江口 一久 国立民族学博物館第三研究
部

(委員)

(事務局長)

朝倉 敏夫 国立民族学博物館第一研究

- 部
庄司 博史 国立民族学博物館第三研究部
新免光比呂 国立民族学博物館第三研究部
杉本 良男 国立民族学博物館第三研究部
園田 直子 国立民族学博物館第五研究部
南 真木人 国立民族学博物館第三研究部
- 事務局
浦野 民子 国立民族学博物館管理部研究協力課国際協力係
長谷川万里子 国立民族学博物館管理部研究協力課国際協力係
下浦 摩紀 『アジア・太平洋』事務局
- 報告者
永ノ尾信吾 東京大学東洋文化研究所
江口 一久 国立民族学博物館
小門 典夫 大阪大学
小島 櫻禮 琉球大学
色 音 中国社会科学院民族研究所
櫻井 哲男 熊本大学
杉本 良男 国立民族学博物館
手塚 恵子 大阪明浄女子短期大学
朴 銓 烈 韓国中央大学校
藤井 麻湖 総合研究大学院大学
村瀬 智 大谷女子短期大学
八木 祐子 宮城学院女子大学短期大学
- 討論者
石毛 直道 国立民族学博物館
大塚 和義 国立民族学博物館
川森 博司 大阪大学
崎山 理 国立民族学博物館
佐々木史郎 国立民族学博物館
杉島 敬志 国立民族学博物館
杉本 星子 京都文教大学
寺田 吉孝 国立民族学博物館
西脇 隆夫 名古屋学院大学
林 勲男 国立民族学博物館
南 真木人 国立民族学博物館

- 楊 海英 中京女子大学
横山 廣子 国立民族学博物館
- 日程
10月27日 (月)
10:30 参加者登録
10:45 開会式
館長挨拶 石毛 直道
研究代表者挨拶 崎山 理
(座長: 櫻井 哲男)
11:00 問題提起 江口 一久
トン族における儀礼と口頭伝承
(座長: 田中 雅一)
13:30 儀礼言語としてのモンゴル叙事詩
一 積義と構造の関係を中心に一 藤井 麻湖
15:15 モンゴルシャマニズムにおける祭
天儀礼及びその祈禱文について
色 音
10月28日 (火)
(座長: 南 真木人)
9:30 太鼓と法輪—スリランカ, 高地シ
ンハラ社会の儀礼と口頭伝承—
杉本 良男
11:10 北インド社会における女性の儀礼
と口頭伝承—婚姻儀礼を中心に—
八木 祐子
(座長: 佐々木史郎)
13:30 ベンガルのパウルの宗教儀礼と口
頭伝承 村瀬 智
15:15 ヒラニーの歌: 神に捧げた息子の
肉料理 永ノ尾信吾
10月29日 (水)
(座長: 杉島 敬志)
9:30 涼山イ族の伝統的婚姻制度と口承
文学“クンジュ” 小門 典夫
11:10 儀礼と歌—中華人民共和国壮族の
事例より— 手塚 恵子
(座長: 横山 廣子)
13:30 歌垣の春唄と秋唄と 小島 櫻禮
15:15 作り出された伝承ともたらされた
伝承 朴 銓 烈
10月30日 (木)

- (座長：林 勲男)
- 9:30 儀礼における音の形とその役割
櫻井 哲男
- 11:10 総括討論
(座長：江口 一久)
- 13:30 総括討論
- 15:15 総括討論

◎文明学部門第16回国際シンポジウム

「近代世界における日本文明—国民国家の形式と変容の比較文明学—」

期間 平成9年11月3日(月)

～11月10日(月)

場所 国立民族学博物館

摘要 今回のシンポジウムは、社会科学のさまざまな分野で、国民国家とナショナリズムについての再検討が行われているか近代日本における国民国家形成と、その後の継承及び変容の問題を比較文明的に検討することを目的として活発な討論がおこなわれました。

顧問

梅棹 忠夫 財団法人千里文化財団会長

組織委員会

(委員長)

石毛 直道 国立民族学博物館長

(委員)

杉田 繁治 国立民族学博物館副館長

熊倉 功夫 国立民族学博物館第一研究部長

端 信行 国立民族学博物館第二研究部長

和田 正平 国立民族学博物館第三研究部長

小山 修三 国立民族学博物館第四研究部長

藤井 龍彦 国立民族学博物館第五研究部長

池之上忠教 国立民族学博物館管理部長

湯浅 叡子 財団法人千里文化財団専務理事

専門委員

Harumi Befu 京都文教大学教授

Josef Kreiner

ボン大学日本文化研究所
長

実行委員会

(委員長)

栗本 英世 国立民族学博物館第三研究部

(委員)

西尾 哲夫 国立民族学博物館第二研究部

笹原 亮二 国立民族学博物館第一研究部

新免光比呂 国立民族学博物館第三研究部

南 真木人 国立民族学博物館第三研究部

林 勲男 国立民族学博物館第四研究部

平山 健一 国立民族学博物館研究協力課長

宇治日出二郎 財団法人千里文化財団常務理事

(参加者)

Harumi Befu

京都文教大学人間学部

Takashi Fujitani

カリフォルニア大学サン
ディエゴ校(アメリカ)

David L. Howell

プリンストン大学(アメリ
カ)

Peter Kleinen

ボン大学日本文化研究所
(ドイツ)

Josef Kreiner

ボン大学日本文化研究所
(ドイツ)

Margaret D. Mehl

スターリング大学スコット
ランド日本研究センター

(ドイツ)

梅棹 忠夫 財団法人千里文化財団会長
 栗本 英世 国立民族学博物館
 富山 一郎 大阪大学文学部
 村田雄二郎 東京大学大学院総合文化研
 究科
 山室 信一 京都大学人文科学研究所

日 程

11月3日(月) (いばらき京都ホテル)

17:00 登録

11月4日(火)

10:00 館内見学

11:30 館長表敬訪問

13:30 開会式

(司会: 栗本 英世)

13:50 基調講演

梅棹 忠夫 (代読: 栗本 英世)

セッション1

(座長: Josef Kreiner)

15:00 History and the Nation in Japan
 and Germany Margaret D. Mehl

16:00 討論

11月5日(水)

セッション2

(座長: David L. Howell)

9:30 中華ナショナリズムと近代日本—
 国民形成における模倣と反発

村田雄二郎

10:30 討論

セッション3

(座長: Harumi Befu)

13:00 Ethnic and Colonial Complicities in
 the Production of Wartime Na-
 tionalism in Japan: Cho Kakuchu
 (Chang Hyok-chu)

Takashi Fujitani

14:00 討論

セッション4

(座長: 富山 一郎)

15:20 明治国家の転回—国民国家と植民
 帝国の二重性 山室 信一

16:20 討論

11月6日(木)

セッション5

(座長: 村田雄二郎)

10:00 ドイツ・日本両帝国初期における
 政教の勢力闘争—「文化闘争」・
 「廃仏毀釈」と近代国民意識の形
 成 Peter Kleinen

11:00 討論

セッション6

(座長: Takashi Fujitani)

13:00 国民国家と陸軍—比較文明的視
 点 栗本 英世

14:00 討論

15:20 特別展「異文化へのまなざし」観
 覧

11月7日(金)

休息日

11月8日(土)

セッション7

(座長: 山室 信一)

10:00 Status and Ethnicity in the Making
 of the Nation-State: Looking for
 the 'Middle Ground' in Hok-
 kaido David L. Howell

11:00 討論

セッション8

(座長: 栗本 英世)

13:00 国民国家の淵から 富山 一郎

14:00 討論

11月9日(日)

総合討論

(座長: 栗本 英世)

10:00 討論-1

13:00 討論-2

15:00 閉会式

11月10日(月) (いばらき京都ホテル)

ワークショップ

解散

◎特別研究「二〇世紀における諸民族文化の
 伝統と変容第6回シンポジウム」

「ことばの二〇世紀—象徴としてのこと

彙報

ば、商品としてのことば—」

期間 平成9年11月19日(水)

～11月21日(金)

場所 国立民族学博物館

概要 今回のシンポジウムは、人々がことばを自己とのかかわりにおいて強く意識しはじめ、その意識が多様化した時代のなかで生じることばをめぐるさまざまな社会現象について、活発な討論がおこなわれました。

シンポジウム委員会

実行委員長

庄司 博史 国立民族学博物館第三研究部

実行委員

塚田 誠之 国立民族学博物館第二研究部

南 真木人 国立民族学博物館第三研究部

山本 泰則 国立民族学博物館第五研究部

事務局

浦野 民子 国立民族学博物館管理部研究協力課国際協力係

長谷川万里子 国立民族学博物館管理部研究協力課国際協力係

清家麻衣子 「二〇世紀」事務局

(報告者)

井出 祥子 日本女子大学

糟谷 啓介 一橋大学

フロリアン・クルマス

中央大学

真田 信治 大阪大学

庄司 博史 国立民族学博物館

田中 克彦 一橋大学

チェレンネーシ・ラースロー

四国学院大学

辻 大介 東京大学

西尾 哲夫 国立民族学博物館

林 正寛 女子美術大学

稗田 乃 大阪外国語大学

細川 弘明 佐賀大学

安田 敏朗 京都大学

米川 明彦 梅花女子大学

ダニエル・ロング

大阪樟蔭女子大学

(討論参加者)

浅松 絢子 文化庁国語課

石毛 直道 国立民族学博物館

加藤 昌彦 国立民族学博物館

崎山 理 国立民族学博物館

新免光比呂 国立民族学博物館

難波 功士 関西学院大学

端 信行 国立民族学博物館

森 明子 国立民族学博物館

早稲田みか 大阪外国語大学

梅棹 忠夫 国立民族学博物館顧問

日程

11月19日(水)

(司会: 端 信行)

10:30 あいさつ 石毛 直道

10:40 1) 問題提起

ことばの20世紀 庄司 博史

第一 近代における「言語」の誕生

(司会: 端 信行)

13:00 2) 近代国家の誕生と言語創造

フロリアン・クルマス

13:30 3) 近代言語学イデオロギーと日本

本国語イデオロギー 田中 克彦

14:00 討論

第二 国家にとっての言語・言語政策

(司会: 森 明子)

15:15 4) 言語認識と言語政策—自然主義と自由主義の陥穽

糟谷 啓介

15:45 5) 「近代」化のなかの言語政策

安田 敏朗

16:15 討論

コメント

浅松 絢子

11月20日(木)

第三 言語に錯綜する民族と国家

(司会: 早稲田みか)

10:00 6) 言葉とアイデンティティー—

イディッシュとユダヤ人アイデン

ティティーに関して

- チェレンネージ・ラースロー
- 10:30 7) 神の選ばれし言葉—アラブ・ナショナリズムと汎イスラミズムのなかのアラビア語 西尾 哲夫
- 11:00 討論
- 第四 エスニック境界としての言語 (司会: 難波 功士)
- 13:00 8) 民族のアイデンティティ—言語—死語のプロセスの類型論 稗田 乃
- 13:30 9) 先住民民族にとっての伝統言語 細川 弘明
- 14:00 討論
コメント 加藤 昌彦
- 第五 現代の方言とアイデンティティ— (司会: 崎山 理)
- 15:15 10) 方言の意識化と方言の実体 真田 信治
- 15:45 11) 方言認知地図に見られる話者のアイデンティティ—
ダニエル・ロング
- 16:15 討論
- 11月21日 (金)
- 第六 位相言語と話者意識 (司会: 加藤 昌彦)
- 10:00 12) 位相言語と話者のアイデンティティ— 井出 祥子
- 10:30 13) 若者ことばのダイナミズム 米川 明彦
- 11:00 討論
- 第七 言語のフロンティア (司会: 新免光比呂)
- 13:00 14) 商品としてのことば—「広告」という言語行為について 辻 大介
- 13:30 15) 「多言語社会」と人々の言語的欲 望 林 正寛
- 14:00 討論
コメント 難波 功士
- (司会: 庄司 博史)
- 15:15 16) 総括討論 20世紀とことば
総合コメント 端 信行

海外における研究・調査・収集活動

氏名	官職	出発	帰国	行先
平井京之介	助手(第一研究部)	9.10.1	10.9.30	イギリス
杉田 繁治	教授(第五研究部)	9.10.2	9.10.11	中華人民共和国
朝倉 敏夫	助教授(第一研究部)	9.10.2	9.10.11	中華人民共和国
山本 匡	助手(第一研究部)	9.10.2	9.10.11	中華人民共和国
石毛 直道	館長	9.10.3	9.10.11	イスラエル
白杵 陽	助教授(地域研)	9.10.3	9.10.23	イスラエル, ギリシャ, イタリア, イギリス
吉本 忍	助教授(第五研究部)	9.10.4	9.11.10	マダガスカル
小長谷有紀	助教授(第一研究部)	9.10.11	9.10.18	モンゴル
押川 文子	助教授(地域研)	9.10.15	9.12.14	インド
松山 利夫	教授(第三研究部)	9.10.18	9.11.14	オーストラリア
石森 秀三	教授(第四研究部)	9.10.20	9.10.25	台湾
池谷 和信	助手(第一研究部)	9.10.20	9.11.22	ロシア
阿部 健一	助手(地域研)	9.10.22	9.12.21	アメリカ合衆国, エクアドル, ペルー, ボリビア, チリ, アルゼンチン
村上 勇介	助手(地域研)	9.10.22	9.12.10	アメリカ合衆国, メキシコ, ペルー
篠原 拓嗣	助手(地域研)	9.10.22	9.11.11	アメリカ合衆国

彙 報

山本 紀夫	教授 (第四研究部)	9.10.25	9.12.24	エクアドル, ボリビア, チリ, ペルー
野林 厚志	助手 (第三研究部)	9.10.25	9.10.31	アメリカ合衆国
大津留智恵子	助教授 (地域研)	9.10.28	9.11. 8	アメリカ合衆国
江口 一久	教授 (第三研究部)	9.11. 3	9.12. 3	ベトナム, 中華人民共和国
朝倉 敏夫	助教授 (第一研究部)	9.11. 4	9.11. 9	大韓民国
吉田 集而	教授 (地域研)	9.11.10	9.12.10	インド
帯谷 知可	助手 (地域研)	9.11.10	9.11.24	トルコ, カザフスタン
長野 泰彦	教授 (第一研究部)	9.11.13	9.11.24	フランス
田村 克己	助教授 (第五研究部)	9.11.14	9.12. 9	ミャンマー
清水 昭俊	教授 (第四研究部)	9.11.15	9.12.14	アメリカ合衆国
松原 正毅	教授 (地域研)	9.11.15	9.11.28	イギリス, トルコ, キルギス
寺田 吉孝	助手 (第二研究部)	9.11.16	9.12.21	アメリカ合衆国
藤井 龍彦	教授 (第五研究部)	9.11.17	9.11.23	イギリス
八杉 佳穂	教授 (第二研究部)	9.11.17	9.11.23	イギリス
朝倉 敏夫	助教授 (第一研究部)	9.11.18	9.11.23	イギリス
大塚 和義	教授 (第一研究部)	9.11.19	9.12. 4	カナダ
岸上 伸啓	助教授 (第一研究部)	9.11.19	9.12. 4	カナダ
大森 康宏	教授 (第五研究部)	9.11.20	9.12. 4	アメリカ合衆国
端 信行	教授 (第二研究部)	9.11.22	9.11.30	アメリカ合衆国
栗田 靖之	教授 (第二研究部)	9.11.22	9.11.30	アメリカ合衆国
秋道 智彌	教授 (第一研究部)	9.11.27	9.12. 2	タイ
横山 廣子	助教授 (第二研究部)	9.11.29	9.12.27	ミャンマー
江口 一久	教授 (第三研究部)	9.12.10	10. 3.25	カメルーン
立川 武藏	教授 (第二研究部)	9.12.12	9.12.23	ネパール
南 真木人	助手 (第三研究部)	9.12.14	10. 1.28	ネパール
秋道 智彌	教授 (第一研究部)	9.12.15	9.12.25	タイ, 中華人民共和国
長野 泰彦	教授 (第一研究部)	9.12.16	9.12.23	ネパール
西尾 哲夫	助教授 (第二研究部)	9.12.17	10. 1. 7	エジプト, オマーン, イギリス
中牧 弘允	教授 (第一研究部)	9.12.20	9.12.25	フィリピン
田邊 繁治	教授 (第二研究部)	9.12.25	10. 1. 6	タイ

来館者抄

10月2日	岡部 恒雄 (江戸東京博物館副館長), 中谷 猛 (江戸東京博物館学芸課長)	家社会人文科学センター教授)
	中馬 猛順 (日本万国博覧会記念協会理事)	10月13日 GONZALEZ, Enrique (ペルー, ワマンガ国立大学学長) 夫妻
10月6日	Mac Duong (ベトナム, ホーチミン社会科学研究所長), PHAM XuanNam (ベトナム国)	10月14日 博物館専門家一行(デンマーク)
		10月16日 成瀬 國晴 (画家)
		10月17日 韓国中央博物館一行(大韓民国)

- 10月21日 産業視察団一行（大韓民国）
- 10月22日 BATASAIKHAN, Okhonoï（モンゴル，国立公文書館長）
- 10月23日 松永 正史（厚生省社会・援護局援護企画課長），岩楯 信和（厚生省社会・援護局書記室管理第二係長）
- 10月24日 FANTAR, M'hamed Hassine（チュニジア，国立遺産研究所教授）
- 10月25日 PAUL, Shimrath（ニュージーランド，オタゴ博物館長），ANSON, Dimitri（オタゴ博物館人文科学部長）
- 10月26日 木村 重信（国立国際美術館長）
- 10月27日 石井 健一（林原自然科学博物館準備室室長），石垣 忍（林原自然科学博物館準備室次長），ブライアン マクラレーン（林原自然科学博物館準備室展示ディヴェロッパー）
- 10月28日 霜鳥 秋則（文化庁文化部長），梶野 慎一（文化庁長官官房総務課長）
- 陳 忠 烈（中華人民共和国，広東省社会科学歴史研究所副教授）
- 11月2日 NORDENSTAM, Bertil（スウェーデン，スウェーデン自然史博物館教授）
- 佐々木高明（(財)アイヌ文化振興・研究推進機構理事長），天池 智裕（(財)アイヌ文化振興・研究推進機構専務理事・事務局長），菊池静夫（北海道開発庁アイヌ関連施策推進室長），山田 賢（北海道開発庁アイヌ関連施策推進室主査），長内 紀雄（北海道環境生活部総務課アイヌ施策推進室長），佐藤 満（北海道環境生活部総務課アイヌ施策推進室主幹），遠山 武（(社)北海道ウタリ協会常務理事・事務局長），秋辺 得平（(社)北海道ウタリ協会理事），松本 次好（文化庁文化財保護部伝統文化課課長補佐）
- 11月6日 ANDERSON, R.G.W.（イギリス，大英博物館長），HARRIS, Victor（大英博物館日本部門キーパー）
- 11月11日 篠遠 喜彦（アメリカ合衆国，ビショップ博物館人類学部前部長）
- 11月12日 加茂川幸夫（文部省学術国際局研究機関課長），三浦 和幸（文部省学術国際局研究機関課専門職員）
- 11月13日 王 錫 榮（中華人民共和国，上海魯迅記念館副館長），顧 八 績（上海魯迅記念館陳列部主任），刑 同 和（上海建築設計研究院総建築士）
- 方 英 淑（大韓民国）
- 11月19日 VINCENT, Gilles（カナダ，モントリオール市立植物園園長・日本庭園日本館基金副理事長），GAGNE, Claude（モントリオール市立植物園・日本庭園日本館

彙 報

基金理事長), LAVOIE, Lucie (モントリオール市立植物園・日本庭園日本館館長)

11月20日 石神 敏 (小樽市博物館主任学芸員)

11月21日 矢口 洪一(元最高裁判所長官) 夫妻

12月5日 RIEGER, Robert (アメリカ合衆国, コーネル大学コーディネーター), REEVE, John (イギリス, 大英博物館教育部長)

12月9日 雲南大学一行 (中華人民共和国), 松本光太郎 (東京経済大学助教授)

12月11日 諸岡 博熊 (UCC コーヒー博物館館長), 楠 正暢 (UCC コーヒー博物館副館長)

劉 智 剛 (中華人民共和国駐大阪総領事館総領事) 夫妻, 王 淑 栄 (駐大阪総領事館領事), 張 潤 北 (駐大阪総領事館領事)

五十嵐耕一 (日本博物館協会専務理事)

12月19日 青柳 勤(内閣法制局参事官)

国立民族学博物館研究報告 22巻 総目次

22巻1号

菅原 和孝：記憶装置としての名前 ——セントラル・サン (lGui と lGana)における個人名の民族誌——	1
新免光比呂：農村の宗教対立を通してみた転換期のルーマニア社会	93
後藤 明：実践的問題解決過程としての技術 ——東部インドネシア・ティドレ地方の土器製作——	125
Bachamiya Abdul Hussainmiya : Aspects of Ethnicity among the Sri Lankan Malays	189
Brian A. Victoria : The Role of Nationalism in the “New Buddhism” of the Meiji Period	201

22巻2号

園田 直子：合成素材の分析・識別法に関する基礎研究 ——アルキド絵具を例として——	249
寺田 吉孝：カースト競合の「場」としてのカリスマ的演奏家 ——T. N. ラージャラッティナム・ピッライと南インド古典音楽文化——	283
熊 文彬：西藏江孜白居寺壁画风格及其画境追求	327
内山 純蔵：縄文時代後期の関東地方における漁労活動 ——先史生業活動復元への GIS の応用——	375
口蔵 幸雄：移住と生業戦略	
野中 健一 ——インドネシア，セラム島の農村における生業活動と食物利用——	425
須田 一弘	
須田 和代	
費 孝通：エスニシティの探究 ——中国の民族に関する私の研究と見解——	461

22巻3号

八杉 佳穂：古典ユカテクマヤ語の逆受動についての一考察	491
平井京之介：北タイ農村における「仕事」概念の一考察 ——相互行為と社会関係——	527
轟 莉莉：閩南農村における神々信仰 ——福建省晋江市農村での実地調査に基づいて——	585
Etsuko Kuroda : Apuntes sobre el Pluralismo Religioso y los Protestantes en la Sierra Mixe y la Ciudad de Oaxaca	661

22巻4号

佐々木史郎：18, 19世紀におけるアムール川下流域の住民の交易活動	683
庄司 博史：エストニアのベツェリ領土問題 ——分断されたセトッ人をめぐって——	765
佐々木高明：雲南省剣川県海門口遺跡出土の炭化穀粒をめぐって	
松谷 暁子 ——それはヒエではなく、アワであった——	803
李 昆声	
阪本 寧男	
渡辺 仁：縄文土偶と女神信仰 ——民族誌的情報の考古学への体系的援用に関する研究（I）——	829
Yoshio Nishi : The Orthographic Standardization of Burmese: Linguistic and Sociolinguistic Speculations	975
Toshifumi Gotō : Materialien zu einer Liste altindischer Verbalformen: 16. <i>chad</i> , 17. <i>chand/chad</i> , 18. <i>chard/chṛd</i> , 19. <i>dagh/dhag</i> , 20. <i>dveṣ/dviṣ</i> , 21. <i>bandh/badh</i> , 22. ¹ <i>man</i> , 23. ² <i>man</i> , 24. <i>mnā</i> , 25. ¹ <i>yav/yu</i> , 26. ² <i>yav/yu</i> , 27. <i>sanⁱ</i> , 28. <i>star/stṛ</i> , 29. <i>starⁱ/stṛⁱ</i>	1001

国立民族学博物館研究報告寄稿要項

1. 国立民族学博物館研究報告は、民族学（文化人類学）に関する論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等を掲載・発表することにより、民族学（文化人類学）の発展に寄与するものである。
2. 国立民族学博物館研究報告に寄稿することができる者は、次のとおりとする。
 - (1) 国立民族学博物館（以下「本館」という）の教官（客員教授等を含む）及び本館の組織、運営に関与する者
 - (2) 本館が受け入れた各種研究員及び研究協力者
 - (3) その他本館において適当と認めた者
3. 原稿を寄稿する場合は、論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等のうち、いずれであるかをその表紙に明記するものとする。なお、この区分についての最終的な調整は、国立民族学博物館研究報告編集委員会（以下「編集委員会」という）において行う。（編集する場合は、原則として論文及び資料・研究ノートを1段組、その他のものを2段組として取り扱う。）
4. 原稿執筆における使用言語は、日本語、英語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語及びドイツ語のうちいずれを用いても差し支えない。ただし、その他の言語を用いる場合は、編集委員会に相談するものとする。
5. 特殊な文字、記号、印刷方法等が必要な場合は、編集委員会に相談するものとする。
6. 寄稿する原稿が論文で、日本語を使用する場合は、原則として英文により500語程度の要旨を付けるものとし、その他の言語による論文の場合は、編集委員会に相談するものとする。なお、寄稿する原稿については、執筆者名のローマ字表記及び原稿表題の英文を付記しなければならない。
7. 寄稿する原稿の枚数は、原則として制限しない。ただし、編集する場合は編集委員会の判断により、紙数等の関係から分割して掲載することがある。
8. 寄稿する原稿は、必ず清書（欧文の場合はタイプ）し、原稿の写し1部を添付するものとする。なお、図、表のスマ入れ、レタリングは、編集委員会で処理する。
9. 寄稿された原稿は、審査委員会において審査のうえ、採否を決定する。なお、原稿は、採否にかかわらず原則として返却しない。
10. 稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。
11. 原稿の執筆に当たっては、別に定める「国立民族学博物館研究報告執筆要領」による。
12. 原稿の寄稿先及び連絡先は、次のとおりとする。

〒565-8511 大阪府吹田市千里 万博公園10-1

国立民族学博物館内

国立民族学博物館研究報告編集委員会（電話 代表06-876-2151）

国立民族学博物館研究報告執筆要領

1. 原稿は、200字詰原稿用紙を使用し、横書きとする。
2. 原稿は、図、表を除き、原則として黒インクを使用する。
3. 日本語を使用して執筆する場合は、原則として当用漢字、現代かなづかいを用いる。
4. 句読点、括弧、各種記号等は、原則として原稿用紙のマス目1字分の扱いをする。
5. 原稿中の年号、月日及びその他の数字は、原則としてアラビア数字を用いる。なお、年号は、原則として西暦とする。
6. 図及び表は、一図、一表ごとに別紙に書き、本文とは別に一括して添付するものとする。なお、図、表ごとに通し番号（「図1」、「表1」等の要領により記入）、図、表名及び説明並びに出典等を記し、本文原稿の欄外には、それぞれのそう入箇所を指定するものとする。
7. 写真は、写りの明瞭なもので、手札判以上の大きさに焼き付けたものに限る。図及び表の扱いに準じて通し番号、説明を付けたうえ、そう入箇所を指定するものとする。ただし、カラー写真は、原則として受け付けない。
8. 本文又は脚注において文献を指示する場合は、カギ括弧を付け、著者名、文献刊行年次、引用ページ数の順に下記の例に従って記載する。

[柳田 1942: 67-69]

[Leach 1961: 123]

[柳田 1942: 67-69, 1944: 20-22; Leach 1961: 123]

ただし、同年次刊行物の場合は、アルファベット順により、下記のように記載するものとする。

[柳田 1942a: 20-22] [柳田 1942b: 10]

9. 脚注は、一つ一つ別紙に記し、通し番号を付ける。なお、本文中に脚注をそう入する箇所には、脚注の当該番号を記入し、別紙の脚注には、本文のページ数を明記するものとする。
10. 本文及び脚注において参照した文献は、すべて原稿の末尾にまとめて下記の方法により記入する。

- (1) 文献の配列は、著者名のアルファベット順とすること。
- (2) 文献の記載は、著者名、年号、論題（タイトル）、誌名、巻、号、出版社名の順とすること。

欧文の雑誌名及び単行本名は、イタリック体にするため、原稿には下線を引くこと。また、ローマ字人名は、スモール・キャピタルとするため、二重下線を引き、日本語の場合は、論題にカギ括弧、雑誌名及び単行本名に二重のカギ括弧を付けること。雑誌の巻数及び号数は、原則としてアラビア数字を用いること。

(例)

論文の場合 (1)

石田英一郎

1948 「文化史的民族学成立の基本問題」『民族学研究』13 (4): 311-330.

Bohannan, P.

1973 Rethinking Culture: A Project for Current Anthropologist. Current Anthropology 14 (4): 357-372.

論文の場合 (2)

杉浦 健一

1942 「民間信仰の話」柳田国男編『日本民俗学研究』岩波書店, pp. 117-143。

Leach, Edmund

1964 Anthropological Aspects of Language: Animal Categories and Verbal Abuse. In Eric H. Lennenberg (ed.), New Directions in the Study of Language, The M. I. T. Press, pp. 23-63.

単行本の場合

泉 靖一

1966 『文明をもった生物』日本放送出版協会。

Murdock, George P. (ed.)

1960 Social Structure in Southeast Asia. Viking Fund Publications in Anthropology No. 29, Wenner-Gren Foundation for Anthropological Research, Inc.

翻訳書の場合

エリアーデ, M.

1974 『シャーマニズム——古代的エクスタシー技術——』堀一郎訳 冬樹社。

van Gennep, Arnold

1960 The Rites of Passage. M. B. Vizedom and G. L. Caffee, trans., The University of Chicago Press.

国立民族学博物館研究報告 22卷4号

〔監 修〕

石 毛 直 道

〔編集委員長〕

小 山 修 三

〔編集委員〕

江 口 一 久

清 水 昭 俊

杉 本 良 男

田 邊 繁 治

長 野 泰 彦

平成10年3月31日 発行 非売品

国立民族学博物館研究報告 22卷4号

編集・発行 国立民族学博物館
〒565-8511 吹田市千里万博公園10-1
TEL 06 (876) 2151(代表)

印 刷 中西印刷株式会社
〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入
TEL 075 (441) 3155(代表)

Bulletin of the National Museum of Ethnology
vol.22 no.4
1997

- SASAKI, Shiro The Trade Activity of the Peoples of the Lower
Amur Basin in the 18th and 19th Centuries
- SHOJI, Hiroshi The Setos and Petseri Territory: Problems of a Split
People by a Russo-Estonian Territorial Dispute
- SASAKI, Komei
MATSUTANI, Akiko
Li, Kunsheng
SAKAMOTO, Sadao Carbonized *Setaria* Grain at the Haimenkou Site,
Jianchuan Prefecture, Yunnan Province, China
- WATANABE, Hitoshi Jomon Clay Figurines and the Goddess Cult:
An Ethnoarchaeological Study, part 1
- NISHI, Yoshio The Orthographic Standardization of Burmese:
Linguistic and Sociolinguistic Speculations
- GOTŌ, Toshifumi Materialien zu einer Liste altindischer Verbalfor-
men: 16. *chad*, 17. *chand/chad*, 18. *chard/chrd*,
19. *dagh/dhag*, 20. *dves/dvis*, 21. *bandh/badh*,
22. ¹*man*, 23. ²*man*, 24. *mnā*, 25. ¹*yav/yu*,
26. ²*yav/yu*, 27. *sani*, 28. *star/str*, 29. *starⁱ/st^ġ*

